

令和7年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

本校では、「共通科目・専門教科（商業）教育」「部活動」「地域協働」等あらゆる機会を通して人格の形成を目指しながら、地域社会や職場に貢献できる実践的な逞しい生徒の育成を図っている。本年度も、5項目の重点課題を挙げて、全教職員で共通理解を図りながら取り組んだ。

- (1)「学習活動1」では、①「学習ふりかえりシート」の活用により、生徒の主体的な学びを可視化し、授業改善の指標とした。②全校的な読解演習や漢字テストの実施、教務通信「Study Navi」による意識啓発を行い、基礎学力の底上げを図った。③年2回の互見授業に加え、STや清掃指導の相互参観を実施し、教員間の指導力共有を推進した。
- (2)「学習活動2」では、①学科集会での3年生体験談発表を通じ、専門学習への意欲向上と学年を越えた連携を強化した。②検定重点期間の校時変更により、放課後補習への円滑な移行と教員の働き方改革を両立させた。③1・2年生への理解度調査を実施し、その分析結果を日々の指導改善に反映させた。
- (3)「学校生活」では、①警察やPTAと連携した施錠点検・街頭指導を強化。無施錠自転車数および交通事故件数の前年度比減少（事故：26件→19件）を実現した。②サイクル安全委員会による「ヒヤリ・ハットマップ」の作成・活用により、生徒の安全意識を醸成した。
- (4)「進路支援」では、①1・2年次のワークショップやキャリアパスポートの活用により、計画的なキャリア教育を推進した。②3年生対象の小論文講座（計22時間）や企業説明会、職場見学を実施し、個別最適な進路支援を強化した。
- (5)「特別活動」では、①SNS等による活動発信で生徒の成長を可視化。外部指導員の招聘や強豪校との練習会を通じ、技術・意識の向上を図った。②トレーニングハウスの有効活用により、基礎体力の強化を推進した。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1)「学習活動1」では、
課題：生徒の自己評価と、考査・検定結果等の客観的学力との乖離。学習習慣の定着不足。
方策：読解・語彙力強化を継続しつつ、家庭学習を含めた習慣化を徹底する。また、若手・ベテランを問わず教員研修を充実させ、組織的な授業力向上を図る。
- (2)「学習活動2」では、
課題：検定試験の思考力・判断力重視化への対応。日商簿記やITパスポート等の上位資格指導における若手教員の育成。
方策：理解不足の生徒への個別指導を徹底し、取りこぼしを防ぐ。難関資格に対応できるよう、学科内での指導ノウハウの継承と教員の専門性向上を推進する。
- (3)「学校生活」では、
課題：事故・パンク（経年劣化原因）の発生数は依然として多く、より早期かつ広域な対策が必要。
方策：「自転車一斉点検」を4月に前倒し実施し、整備不良を未然に防ぐ。交通指導の範囲を学校周辺から駅前・鳳鳴橋付近まで拡大し、登下校の実態に即した指導を展開する。
- (4)「進路支援」では、
課題：進路指導計画の全体共有と、生徒が主体的に参加する機会のさらなる創出。
方策：「進路指導ロードマップ」を全校配布し、計画を可視化する。HR等の時間を有効活用するとともに、生徒が自発的に参加できる進路講座を拡充し、早期の意識醸成を図る。
- (5)「特別活動」では、
課題：高校部活動としての意義の再認識。生徒間の意欲の二極化と目標設定のズレ。
方策：顧問と生徒の意思疎通を深め、適切な目標共有を図る。「キャプテン会議」に副部長等も含めるよう改善し、組織としてのリーダーシップ育成と協力体制を強化する。

(様式5)

8 学校アクションプラン 富山県立高岡商業高等学校 (令和7年度)

令和7年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動1 (教科指導)	
重点課題	基礎学力の向上と生徒が主体的に取り組める授業実践	
現 状	生徒の興味・関心や学習に対する意識、学力などが多様化しており、学習への取り組み方や理解度、定着状況に差が表れており、特に読解力に差が大きい。一方、社会が求める人物像や新しい学力観に向け、生徒が主体的・対話的に学び、自ら学習を深めるための授業実践を推進することで、学習意欲を高め、基礎学力を定着させることが必要である。また、そのような授業実践などの取り組みのための教員研修が不足している。	
達成目標	主体的に授業や課題に取り組めた割合 (「学習ふりかえりシート」を活用し、自己の取り組み状況を確認し、意欲的な学習活動ができたかを調査)	校内研修(研究授業、互見授業)における授業を実施した回数、授業を参観した回数、研究協議に参加した回数
	85%以上	計4回以上
方 策	① 1・2学期末に「学習ふりかえり WEEK」を設定し、「学習ふりかえりシート」を用いて学習に対する取り組み姿勢などの学習活動をふりかえる時間を確保する。また、生徒の主体的に取り組む姿勢を改善させるための契機とするため、振り返りシートの結果は職員に情報共有し、授業改善に役立てる。 ② 学習意欲を喚起させるため、年5回の定期考査前に教務通信「Study Navi」を生徒に配布し、意欲的に取り組めるよう生徒手帳に追加した学習計画を立案させる。 ③ 全ての教科に共通する読解力や語彙力向上のため、特別編成授業時で国語科より学年ごとに統一した言語活動を取り入れる。 ④ 年2回の校内研修期間を設定し、ベテラン教師からも若手からも互いに学びあえるよう可能な範囲(通年で全教職員対象)で研究授業や互見授業を実施する。見学者からは率直な意見や感想が得られるよう「見学カード」を工夫するなどして、授業改善に役立てる。また、年次研修者へは、研究協議を実施し授業改善につなげる。	
達成度	97.5%	5.89回
具体的な 取得状況	① 各学期末の「学習ふりかえり WEEK」では、生徒が自分の学習活動に対する振り返りや評価を行った。主体的な取り組み方を中心に、座学中心科目全般と実技科目(情報・体育)に分けて「学習ふりかえりシート」を作成し、主体的に学習へ取り組める授業への工夫、改善に努めた。 ② 教務通信「Study Navi」では、学習の必要性や取り組み方など、様々な視点から生徒に伝え、考えさせる内容とした。 ③ 7月の特別編成授業において、全学年で短めの文章を読み、設問に答える演習授業を実施した。3学期末にも実施予定である。また、語学力向上のため1学年の授業において漢字小テストを実施した。 ④ 互見授業を5月と10月に実施した。学校訪問もあり、授業実施や参観の回数は多くなった。また、教室環境や連絡を聞く姿勢も学ぶ意欲に関係するため、STや清掃を互見し、担任が独自で行ってきたことを互いに研究する機会を設けた。	
評 価	A	目標は2項目とも達成することができた。
学校関係 者の意見	学習ふりかえりシートの達成度が非常に高く、先生方の取り組みの成果と感じます。語学力向上の取り組みや資料も拝見しましたが Study Navi なども担当者の工夫や思いが伝わる内容になっており、先生方の考えや経験なども共有できているのではないのでしょうか。ご負担もあると思いますが今後も継続していくことを期待しております。	
次年度に 向けての 課 題	主体的に取り組む姿勢は、「学習振り返りシート」によって、自己評価が高く自分なりに取り組んでいるということだが、授業の様子や定期考査、検定試験の結果等から考えると、身に付いている学力は決して高いものではない。そのため、今年度から実施している読解力や語彙力を高めることに加え、学習への習慣づけが必要である。また、教育の質を高めるため、若手やベテランを問わず、全教職員の指導力向上に向けて、教員研修をさらに充実したものにしておく必要がある。	

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)

(様式5)

8 学校アクションプラン 富山県立高岡商業高等学校 (令和7年度)

令和7年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学習活動2 (検定指導)	
重点課題	小学科における重点科目の学習理解度の向上と資格取得	
現 状	商業科目の各専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図ることを指導目標としている。小学科ごとに重点科目を設け、学習理解の到達度を確認するとともに、全国商業高等学校協会主催の資格取得目標を掲げることにより、学習理解到達度の向上や資格取得による生徒の満足度を高めるようにしている。	
達成目標	1・2年生は小学科の基礎科目、重点科目の授業内容の理解度 流通ビジネス科：ビジネス基礎、マーケティング 国際ビジネス科：簿記、ビジネス・マネジメント 会計ビジネス科：簿記、財務会計I 情報ビジネス科：情報処理、プログラミング	3年生は3年間を通して、全商主催検定1級の合格数
	90%以上	350以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・生徒に各学科の教育目標、重点科目、取得資格目標検定について説明を行う。また、取得を目標とする資格や検定について将来の活用方法を理解させることで、生徒の主体的な学習意欲を引き出し、自らの学習を調整できるよう指導方法を工夫する。・理解した学習内容を、生徒同士で協働しながら学習を深めたり、プレゼンテーションする場を設けるなどして、理解した知識を言語化したり人に伝える力を育むことで、より理解が深められるよう指導方法を工夫する。・生徒の資格取得状況より、さらに上位の資格取得に向けての具体的方策や改善点について協議する。・教員が各学科の取得目標とする検定の学習内容の研究を深め、教員間でより効果的な指導方法について意見交換を行う。	
達成度	1年生 94.9% 2年生 96.3%	3年生 303
具体的な取得状況	<ul style="list-style-type: none">・各学科で学科集会を実施し、生徒たちに各学科の学習内容や重点科目、実践的活動や目標とする検定について説明を行った。3学期には3年生が自身の学習や進路に取り組みについて体験談をもとに話してもらうなどした結果、学習意欲や課題の明確化、進路意識の向上、学科間の縦の連携を図ることができた。・検定取得に向けて重点期間を設定し、校時変更を行うことで放課後補習へスムーズに移行する流れを工夫した。補習時間にも制限を設け、限られた時間の中で質の高い教育を目指し、教員の働き方改革にも配慮した。・1・2年生は小学科の基礎科目、重点科目の授業内容に関する理解度調査を実施した。教員にとっては日々の授業の指導内容を振り返る機会となり、より効果的な指導方法を研究するなど授業改善に努めている。	
評 価	B	1・2年生の多くの生徒が小学科の基礎科目、重点科目の授業内容について理解している。3年生は目標値を達成することができなかったが、全商主催検定以外の資格に積極的に挑戦し、成果をあげた。資格の取得だけでなく、りゅうりゅうフェアにおいて商業科で学んだことを実際に活用し、実践力を身に付けた。それが、進路決定における面接試験でも生かされた。
学校関係者の意見	1・2年生の基礎科目や重点科目の授業理解度が90%以上(1年生94.9%、2年生96.3%)と、目標を見事に達成しており、日々の丁寧な指導の成果が表れています。また、3年生が日商簿記やITパスポートといった社会的に認知度が高い上位資格に積極的に挑戦し、合格者を出している点は、生徒の向上心を引き出す素晴らしい取り組みです。	
次年度に向けての課題	1・2年生で小学科の基礎科目、重点科目の理解度は概ね目標を達成していた。さらに理解を深めるために、生徒が主体的に学ぶことも必要不可欠で、授業展開を工夫する必要がある。理解不足の生徒には個別指導等による継続的な指導を徹底し、取りこぼさないように努め、学習意欲を高めていく必要がある。 各種検定試験は、以前より思考力、判断力を求める問題が多く出題されるようになってきているので、教員の指導力向上も図る必要がある。また、社会的認知度の高い日商簿記検定やITパスポートなどの合格を目指す生徒が増えているが、若手教員が多くなっているため、上級資格の指導力も身に付けていかなければならない。	

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)

(様式5)

8 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

富山県立高岡商業高等学校 (令和7年度)

令和7年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 3 -	
重点項目	学校生活 (生徒指導)
重点課題	基本的な生活習慣 (スケジュール管理含) の確立と防犯意識の向上
現 状	本校生徒の86.1%が登下校で自転車を利用しているため、その分、自転車の施錠忘れによる盗難が毎年発生している。他の高岡地区の高校でも自転車盗難が多くなっているという報告があり、盗難に遭った生徒の殆どが、無施錠である。その主な理由として、急いでいて鍵をかける「時間がない」というものである。本校では、月例登校指導(1日、15日)にて、自転車の鍵かけを呼びかけるとともに無施錠自転車をチェックし注意喚起を行っているが、令和6年度は、年間を通じ、校内で延べ48台の無施錠自転車があった。また、自転車事故件数も年間で26件と多かった。
達成目標	自転車施錠率 年間を通じて99%以上 (月2回確認)
方 策	<ul style="list-style-type: none">基本的な生活習慣を見直すとともに、スケジュールや時間管理を行い、余裕を持った行動を心がける事で、うっかりミスや物品の紛失の減少を図る。月例の交通安全指導 (1日、15日) と同時に自転車の施錠点検を行うとともに、生徒会活動やPTA・警察ともタイアップした啓蒙活動を行うことにより、盗難防止の意識向上に向けた注意喚起や指導を強化する。また、学校の駐輪場に監視カメラを設置し、自転車盗難に対するセキュリティを高める。交通事故の未然防止につなげるため、生徒会活動等で、「ヒヤリハットマップ」を作成・掲示することにより、生徒の交通事故防止に対する意識を高める。
達成度	全体99.0% 5月01日 98.5% (7台) 9月16日 98.7% (6台) 6月02日 99.4% (3台) (※達成) 10月1日 97.9% (10台) 6月16日 98.7% (6台) 10月15日 99.4% (3台) (※達成) 7月15日 99.4% (3台) (※達成) 11月05日 99.6% (2台) (※達成)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">月例の交通安全指導 (1日、15日) と同時に、教員および自律委員、サイクル安全委員で自転車の施錠点検を実施した。今年度は特に、高岡警察署から自転車施錠に関する幟と横断幕をお借りして、啓発活動に力を入れるとともに、6月にはPTAの挨拶運動の折に自転車の鍵かけも呼び掛けて行うなど、積極的な啓蒙を行った。今年度は、年間を通じた無施錠自転車が40台となり、昨年から減少させることができた。また、自転車事故件数も年間で19件であり、昨年と比べて減少している。これらの要因として、上述の啓発、啓蒙活動に加え、サイクル安全委員会が作成した「ヒヤリ・ハットマップ」の貢献も大きいと考えている。
評 価	A 年間を通じて99%以上という目標に対して、全8回の点検を平均すると、99.0%となり、達成することができた。
学校関係者の意見	今年度は、自転車施錠率99.0%という極めて高い目標を達成されたことに、深く敬意を表します。また、警察署やPTAと連携した啓発活動が、無施錠台数の減少に結実したものと評価いたします。今後は、「Wロック (二重施錠)」の推奨による防犯習慣の確立、②生徒会と地域が連携したキャンペーンの強化、③交通安全ルール遵守や、マナー向上及び情報モラル教育を含む講話の質的向上、の3点を検討ください。なお、駐輪環境を整えることは、生徒の心の安定と学校への信頼を高める基盤ですので、この優れた取り組みの継続を期待いたします。
次年度に向けての課題	自転車に関する指導案件の中で、タイヤのパンクと自転車の事故件数を見てみると、タイヤのパンクは昨年度が14件で、今年度は8件 (すべて経年劣化が原因)。自転車事故件数は昨年度が26件で今年度は19件。ともに減少傾向にはあるものの、依然として数としては多く、対応が求められると考える。改善策として、例年9月に実施している自転車一斉点検を年度初めの4月に実施し、登下校で利用する自転車の整備を早期に実施する。また、交通安全教室の実施に加え、今年度作成した「ヒヤリ・ハットマップ」の有効活用、さらには、月例の交通安全指導の際には、その活動範囲を従来の学校周辺から高岡駅前のアーケード付近や鳳鳴橋付近などに拡大することで、より生徒の実態を踏まえた活動として実施していきたいと考える。

(評価基準 A: 達成できた B: ほぼ達成できた C: 達成できなかった)

(様式5)

8 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

富山県立高岡商業高等学校 (令和7年度)

令和7年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	進路支援 (進路指導)	
重点課題	1年次から3年次まで3年間を見通した進路指導計画の立案	
現 状	進路指導部では、進路希望調査や進路ガイダンスの実施、過年度生の資料をまとめた「進路の研究」を作成し、配布している。またクラス担任は、年間3回以上の個人面談を実施し、将来の進路について生徒に考えさせ、それに対する助言をする機会を設けている。しかし、本校の生徒は自らの進路を意識する時期が遅く、3年生になる直前ようやく真剣に進路選択を始める生徒が多い。それぞれが一過性のイベントで終わっていること、「進路選択」という全体の流れの中でのそれぞれの位置づけや役割が、生徒にも教員にも明確になっていないことが一因であると考えられる。入学から卒業まで、3年間を視野に入れたバランスのとれた進路指導計画が必要である。	
達成目標	1・2年生 学年・クラスで実施する進路学習の時間	3年生 進路に対する満足度 (就職内定企業・進学予定校)
	各学年 7月3時間以上 3月3時間以上	3年生：95%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・1年生では職業観の育成を目標に、2年生では個々の進路目標の具体化を目標に、7月と3月の特別編成授業の期間を中心に進路学習の時間を計画する。実施の際には、進路指導計画全体における当該行事の位置づけ・その後の見通しが、生徒にも教員にも明確になるように工夫する。また中学校からのキャリアパスポートとの接続を図り高校でのキャリアパスポートとして記録に残していく。・進路指導計画を教職員だけでなく全生徒にも配付し、本校における進路指導計画を明確にする。・進路ガイダンスや外部講師招聘等を活用し、進路実現に向けた指導だけではなく、キャリア教育とも関連づけながら適切な職業観を身に付けさせる。・3年生は、個々の進路目標の達成が重要となるため、就職者、進学者、それぞれの希望に合ったガイダンス・特別講座等を計画する。就職内定先・進学予定校が決定した時点で、アンケート等により実態把握と意識調査を行う。	
達成度	4-7月 1年3時間 2年3時間 2-3月 1年4時間 2年3時間 3年生 進路に対する満足度 就職100% 進学98.9%	
具体的な 取得状況	<ul style="list-style-type: none">・1年生 4月に職業についてのワークショップ2時間、キャリアパスポートについての説明1時間、3月に進路ガイダンス2時間、キャリアパスポートのまとめ2時間を実施予定。・2年生 7月に進路ガイダンス3時間、クラスで進路学習を1時間実施した。3月には進路別ガイダンス2時間、キャリアパスポートのまとめ2時間を実施予定である。・3年生：国公立大学望者対象に外部講師を招聘し小論文講座11回22時間実施全員を対象とした企業説明会を実施(高岡市役所との合同開催、2社参加)就職希望者は応募前職場見学を3社以上行った。・各学科集会で3年生進路決定者から1・2年生が話を聞く時間を設けた。	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none">・高校3年間を見据えた本校の進路指導計画を教職員、生徒で共有することができなかった。・1・2年生の進路学習の時間は何とか確保できたように思われる。しかし、3年生については、外部講師等招聘予算が限られており、昨年まで実施していた外部講師を招聘できなかった。外部講師に頼らない希望進路の実現のためのサポート体制を構築することが必要だと思う。
学校関係 者の意見	就職、進学ともに非常に高い満足度で良かったです。3年間の集約としての成果であり学校生活の満足度に繋がることと思います。また、指導方針やスケジュール感を明確にするために作成された進路指導ロードマップも分かり易くて良いです。会議の場で提言させて頂いた就職活動について、学生達のスムーズな社会への加入と定着を願い、活動の前段階や内定後のフォローなども可能な範囲でご検討いただければ嬉しいです。	
次年度に 向けての 課 題	進路指導部が作成する「進路指導ロードマップ」を教職員、生徒に配布し、進路指導計画を明確にする。また、進路学習の取り組みやHRなどの時間を有効活用することが必要である。また、生徒が主体的・意欲的に取り組める進路講座などを増やしていきたい。	

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)

(様式5)

8 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

富山県立高岡商業高等学校 (令和7年度)

令和7年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	特別活動	
重点課題	部活動において精神的な成長と競技力の向上	
現 状	本校は、部活動を人格形成の重要な柱として位置づけている。各部がスポーツ庁のガイドラインや県の方針を踏まえた部活動の在り方を検討し、高い目標に向かって課題を追求しながら自発的な活動を行い、合理的・効率的に工夫した練習を行っている。部活動への参加意義を明確にし、その活動を行うことにより、成就感・達成感を味わい、心の成長が感じられることを目指す。	
達成目標	部活動を通して心の成長と競技力の向上を感じる生徒の割合	
	90%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none">・本校における部活動と中学校の部活動や地域クラブでの取り組みの違いをしっかりと認識、理解させ、生徒が主体の活動を推進し、人格の形成を図る活動をさせる。・部活動指導員、特別活動指導員、テクニカルエキスパートや各部のOB等からの協力を得ながら、充実した部活動になるように工夫する。・トレーニングハウスのトレーニング機器を有効に活用し、基礎体力の向上を図る。・キャプテン会議やリーダー研修会を開き、リーダーとしての資質を高める。・生徒の活動の成果を発信し、達成感を感じさせる活動を展開する。・スポーツ庁及び県の方針に従いながら、県内外の強豪校と練習する機会を積極的に設け、技能の向上を図るとともに意識の高揚に努める。	
達成度	89.2%	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・生徒が部活動で自己の成長を実感できるように、活動報告を適時に行い、各部活動の活躍を全校で共有した。また、SNSを活用して活躍の様子を発信した。・部活動指導員及び特別活動指導員、テクニカルエキスパートによる技術指導等を行い、各部の活動内容の充実を図った。・トレーニングハウスのトレーニング機器を有効に活用し、基礎体力の向上を図った。・県内外の強豪校との練習会等により、技術の向上を図るとともに意識の高揚に努めた。	
評 価	A	部活動を通して、競技力や心が成長したと感じている生徒は、「大いにある」が41.7%、「ある程度ある」が47.5%であった。
学校関係者の意見	中学校の部活動との位置づけなど募集活動の中で難しさはあると思いますが、これからも人格形成の重要な柱としての部活動の取り組みを期待しております。ただ、学生の部活動に対する意識の2極化のご報告もありましたが、学習発表の取り組み内容を活かした地域課題解決やSNS動画配信、eスポーツなどの新しい取り組みや、理念に反するかもしれませんが、毎日の部活動から曜日限定の少し緩めの活動なども部活動の在り方の多様化も2極化に対する受け皿として検討の余地があるのかと感じます。	
次年度に向けての課題	中学校の部活動の取り組みと本校の教育の柱の一つである部活動の位置づけの違いを理解させて活動させる。 キャプテン会議の改善を図るために、部長の他、部長以外にも参加してもらい、リーダーとしての資質や部全体での協力意識を持たせるよう努める。 生徒の部活動に対する意識の二極化が見られる。それに伴い、部活動における目標の設定も二極化しているように受け取れる。顧問の先生方が目標の設定について、生徒と意思疎通を積極的に図り、よりよい部活動になるように努める。	

(評価基準 A: 達成できた B: ほぼ達成できた C: 達成できなかった)